

賢い子に育てよう(1)

2024.5.28(火)

フロローグ

”賢い”という言葉は響きのいい言葉です。

ガリガリと一心不乱に勉強しているというイメージがないし、
それでいて、いろんなことをよく知っていて、いろんなことができて、成績も常にいい…。

「勉強できますねえ。」と言われるよりも、「賢いですねえ。」と言われた方がずっとうれしい
心持ちがします。

さて、この「賢い」という状態ですけど…

「賢い」=「本質」が見抜ける

少し難しい論理的な表現を使うと、「賢い」というのは、「ものの本質を見抜ける」という状態といえます。

だから、「賢い子」は、事物を、表面的な姿や動きからではなく、その対象の本質から見ます。
本質とは、そのものをそのものたらしめている性質ですから、表面的にどれだけ粉飾されていても、「賢い子」は、そのものの本当の姿を見抜きます。

これは、学習という局面においては、ものすごい武器になります。

問題がどれだけ複雑で、攪乱的な条件でカモフラージュされていても、問題の核心となる部分を見抜いてしまうので、表面的な条件に惑わされることなく、最短距離で正解に至ることができます。問題を読むと、何をどんな手順で解くと答が出るのかを一瞬のうちに見抜くのです。

ここで、注意することですが、「本質を見抜く」というのは、外的な攪乱的・表面的条件を引っぱがして、何かその中にある「本質」を見つけ出す、というわけではありません。

外的な攪乱的・表面的条件そのものの中に本質を表す性質を見るということです。

これは「現象と本質」という論理学のカテゴリーの問題ですので、難しいです。

そこで、小学生が割合の問題を解くとき、どのように割合の本質を使って問題を解いているのかという例を通して、「本質を押さえる」ということの意味を説明します。

長くなりますので、次回になりますが…。

じゃあ、本質を学ぼう！

「う～っ、では、**本質を学ぼう**」ということになります。

それは、それでいいのですが、では、本質って、具体的には、どんなもんですか？

「う～っ…??？」

人間は自分がもっている知識を使って考える

決定的に確かなことが1つだけあります。

人間は、ものを考えるとき、自分の頭の中にある”知識”しか使えない、ということです。

頭の外から新しい知識もとり入れるのですが、どんな知識を取り入れるといいのかを判断するのも持っている自分の知識です。役に立たない知識を取り入れても問題は解けません。

しかも、この持っている知識というのは、これまでの学習を通して習得したものです。

これまでの学習が間違っていれば、今、頭の中にある知識には、限界があります。

”教育の恐ろしさ”がおわかりいただけるとと思います。

”賢い子”に育てるには…

さて、ところで、”賢い子に育てる”とは具体的に、どういう指導をすればいいのかを考えてみましょう。

”具体的に”です。

割合の問題を解くとき、賢い子は、どのような知識を使って、どのように考えて問題を解くのかを調べてみます。

賢い子が、割合の問題を解くときの思考プロセスの解析です。

小学5年生レベルの割合の問題を解くときの思考プロセスの分析です。

文部科学省の全国学力・学習状況調査で出題された割合の問題を、割合の本質を使って解くときの思考プロセスを分析してみます。／4割の6年生が間違ったといういわくつきの問題です。

詳しくは…

長い文章になります。

次回に、詳しく論じます。

”賢い子”を育てる数専ゼミです。

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp